

第5回 苫小牧市食育推進協議会

日時 平成30年8月7日(火)
18時00分～19時30分
場所 市役所北庁舎3階会議室

次第

- 1 開会
- 2 新任委員紹介 胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室 重田康成様
公募委員 山崎様 道外転出のため委員辞退
- 3 健康こども部長挨拶
- 4 議事
 - (1) 苫小牧市食育推進計画について
 - (2) 苫小牧市食育推進計画 平成29年度実施結果と平成30年度実施計画について
 - (3) 食育月間(6月)における取組について
 - (4) 意見交換(各団体の取組発表)

(1) 苫小牧市食育推進計画について

事務局	<p>お手元に食育推進計画をご用意いただいているかと思いますが、この計画書につきましては4回の食育推進協議会を開催し、平成29年11月に発行いたしておりますが、最後の協議会が昨年8月だったということで約1年が経過しているということですので、内容の確認の意味も込めまして全体の概要を説明させていただきます。</p> <p>1ページから第1章計画策定にあたってにつきましては、計画の趣旨・目的、食育の定義、計画の位置づけ、計画の期間を記載しております。計画の期間は平成29年度から平成33年度までの約4年間としています。3ページ市民アンケートの結果、パブリックコメントについて記載をしております。次に4ページから第2章苫小牧市の食の特徴としまして、水産業、農業、林業、その他について記載をしております。8ページからは第3章苫小牧市の食をめぐる現状と課題といたしましてデータの分析や市民アンケートの結果などを記載しておりますが、これらから導かれた課題について30ページにまとめております。課題1「食と健康」で考えると、朝食を毎日食べる児童は、小学生から中学生にかけて減少している。また小中学生の肥満出現率は全国平均より高い。成人の肥満の割合は男性では30歳代以降で高く、やせは20歳代、30歳代の女性の割合が高い。野菜を食べる頻度が少ない。など、色々なアンケートのなかで導き出した課題をまとめております。課題2につきましては朝食を1人で食べる割合は、年齢とともに高くなっている。共食の機会が少なくなっている。食品ロス削減は、年代によって差がある。といった課題があげられました。課題3では、地元の食材を食べること意識は、年代により差がある。食育に関心がある人の割合は6割程度にとどまっている。こういった問題、現状の分析から様々な課題をまとめております。31ページからの第4章では今の課題を解決するための基本理念として、「生涯にわたって健全な食生活を実現し、豊かなところと健やかなから</p>
-----	---

	<p>だをつくります」と掲げ、3つの柱の基本目標に基づき食育を推進することとしております。目標1「食」を学び、健康なからだをつくります。目標2「食」を楽しみ、感謝の気持ちや育みます。目標3「食」にふれあい、苦小牧の味を伝えます。また、重点項目としまして8つの項目の頭文字をとって「とまこまい(My)ライフ」を設定し、取り組むことといたしました。続いて34ページ第5章からは食育推進の取組としまして重点項目にむけた市の取組、各団体の取組を紹介しております。食育の推進につきましてはすでに各分野で行われていることが分かりましたが、互いに関連性のあるものについて共通の理解を持つこと、連携し合えるものは効率的な取組にしていくことなどを狙いとしております。こちらに書かれている取組につきましては議事2で報告させていただきます。47ページ第6章食育推進にあたっての数値目標を記載しておりますが、目標値は国や北海道の数値を参考に苦小牧市の目標値を設定しております。続いて48ページは計画の推進体制、連携体制、49ページは各分野で期待される役割、50ページは計画の進行管理について記載をしております。最後に51ページからは資料編として、食育基本法、食事バランスガイド、苦小牧市食育推進協議会設置要綱、協議会委員名簿、検討経緯を記載しております。食育推進計画につきましては郵送で送らせていただきまして、説明等につきまして遅くなってしまい申し訳ありません。以上です。</p>
--	--

【質疑応答】

委員長	最後の協議会の資料は完成版ではなかったということですね。
事務局	はい。パブリックコメントで提出したものをお配りしていました。
委員	小学校の先生達の朝食の欠食についてどうなのかと感じました。若い独身の先生は朝食を食べていない方も多いのではないかと。そういった先生方が子どもたちに「朝食を食べよう」と教育をしているのか。疑問に感じました。
委員長	スローフードの講演に携わった際、スタッフは忙しく、スローフードとかけ離れた食事を裏で食べる…といった経験と似ている印象ですね。
委員長	先生も1人の人間。本人の優先順位が食か睡眠か仕事かといったことになってくるのではないかと。ただ、食べている人は食べている。統計をとったとしても一般社会人の朝食欠食率の割合と変わらないように思う。
委員	実際に幼稚園の職員にアンケートをとったことはないのですが、体力的にはおそらく食べてこないと持たないので食べてきているのではないかとと思いますが、何を食べてきているのかという課題は感じている。子どもを教育する側として、職員への食育も必要であるのではないかと。
委員長	重田委員は食育推進計画をみて何か感じるものはありましたか。
委員	全体的な感想としましては調査をしっかりされて、細かいところまでまとめられているという印象でした。このような会議の中で評価もされていくのかなと思っております。朝食の欠食については、学校では栄養教諭が食育授業や給食時間等を利用して指導していると思いますので、その取組がこれから朝食欠食の減少につながることで、また計画の中での取組を継続していくことで、食育推進計画の結果として反映されていくのではないかと感じます。

委員	協議会に参加させていただき、とても素晴らしいものができたので機会があれば食育推進計画を広めていきたいという思いがあり、広報6月号に「とまこまい(My)らいふ」の記事が掲載されているのを見まして、院内の掲示板にも掲載しました。また、院内でもっている地域包括支援センターでの健康教育の場で計画について講話しました。ただ、そういった場に参加される方は意識が高い方ばかりなので、今後はそういった場には参加せず必要としている方にどのように発進していくのかが課題なのではないかと感じました。
----	---

(2) 苫小牧市食育推進計画 平成29年度実施結果と平成30年度実施計画について

資料1について平成30年度新たな取組がある事業について報告。

【質疑応答】

委員	各課で行われている取組については詳しく記載されているが、横断的な取組が行われているのか。単独で行われている印象が強い。食育計画があつて、計画のもと食育を取り組んでいるといったようになっていけば良いと思う。先ほど小学生の朝食欠食についての話があつたが、北海道米キャンペーンという事業に携わり、スポーツをやっている子どもは朝食の欠食が少ないように感じる。からだをつくるために何が必要なのかということを理解し、中学生、高校生になるとスポーツするための食事を選ぶことができている。味の素が「勝ち飯」といったスポーツをする方のための食事のサポートを行っているほか、選抜高校アイスホッケーの中でも味の素が後援を行っている。そういった意味では、計画の中でアスリートフードマイスターの養成といった取組があるが、小学生を対象にしたスポーツをするための食育についても考えていけたら良いと思う。良いものを作ったのに、何か宣伝の効果があれば良いと思う。
委員	35.献立内容の充実とあるが、全体的に何か目新しいことをして食育を推進していくという傾向にあるように思うが、毎日の給食献立を写真にとって発信していく方が良いのではないか。イベント的なものではなく、安定したものを情報提供していくことが良いと思う。先ほどの話で前後しますが、私たちは朝自然と起きてしましますが、若い方たちは寝ていられる。そういった方は給食が非常に大切になってくるわけです。食育を考えると給食がいかに重要かということがわかる。
事務局	現在の苫小牧市の給食の現状として、2つの給食施設で調理設備が異なるため、和え物が提供できないということがある。安全なものを提供するために食材費が高騰していることから、給食費の値上げも検討中である。他市と比較しても、品数が少ないことは事実としてある。
委員	仕事からスーパーマーケットの売り場をみていると、惣菜や弁当の売り場が増えており、どれだけの人が食事を作っているのか…と感じる。その中で「食育」にどれだけの人が興味・関心を持っているのかと疑問に思う。孫の生活リズムをみていると特に夏休み中の今は就寝時間が乱れることから朝食を食べていない日もあり、おそらくそういった家庭も多いのではないかと感じる。

委員	<p>自分の経験談になりますが、私は両親が養豚場の経営をしていたこともあって小さい頃から「健康に気をつけなさい」ということと、カップラーメンやお菓子の成分表示をみせて「着色料が入っているよ。酸化防止剤も入っている。」という声かけもあり、食べたいものを食べられない小さい時期があり、中学高校に入ってからはお小遣いの範囲で好きなものを食べる分には自分で管理するといった経緯があり、今の自分が出来上がっているのかなと思います。食育推進計画が冊子となり、どれだけの人が見てくれるのかということに関しては、冊子になってしまうと開くまでに時間がかかってしまうことや、開いたとしても興味のあるページまで読み進めるのに時間を要することが問題かと思う。市から配られている健康カレンダーの6月のページを開くと、「6月は食育月間、食べることは生きること」という内容がのっており、カレンダーを壁に貼っている我が家でも目に付く。冊子を広めていくよりは、日常生活の中に取り入れていく方法を考えていければ良いのではないかと。最低限これは知ってほしいというベースができたので、あとはどう市民が意識して活用できていくのかを考える必要があるように思う。もうひとつ、先ほどの惣菜の話で、私も5月に赤ちゃんを産んだばかりで3人の子育てにバタバタの中で朝ごはんをしっかりと作る時間がなくなってしまった。そういった主婦の方は多く、主婦は今「時短」という言葉に敏感で、1分2分でも時間を有効に使いたい、時間と日々向き合っているのではないかと。時間のない中で何でも良いから食べてという食育なのか、もうひとつ先をいって短い時間の中で工夫をして食事バランスをとるといった食育を推進していくのか。私自身、金平ごぼうを作るのが好きで、地元の新鮮野菜を使って作ったときのおいしさが忘れられず、そういった経験をしていると、時間がない時に買った惣菜を食べたときに「自分が食べたいものではない」という気持ちになるのではないかと。食べるのが好きであれば、時間がなくても食べると思うし、仕方がなく食べるという意識の方は食べるのが後回しになっているように思う。まずは自分が好きなものを知り、本当のおいしさを知ってもらうことでいつかは気づくのではないかと。必要にせまられてから気づくのではなく、日常の中で気づいていくきっかけを与えられたら良いのではないかと。思います。</p>
----	--

(3) 食育月間（6月）における取組について

資料2、パワーポイントにて報告。

(4) 意見交換（各団体の取組発表）

田崎委員長、山内委員より提供資料あり

委員長	<p>昨年12月、駒大クリスマスランチを第3回として地元の食材を何か活用できないかという学生の意見からできた企画になります。この日のレシピはスケトウダラときのこのピラフ風、ピラフは炒めずに炊飯器で炊いて作りました。他、樽前湧水豚のローストポーク、厚真・桜姫鶏のフライドチキン、北海道の彩野菜、野菜ときのこのスープ、よいとまけをケーキ風にアレンジしたよいとまけ一きを500円で提供させてい</p>
-----	---

	<p>いただきました。ありがたいことに好評なお言葉をいただきました。</p>
委員	<p>4月22日、苫小牧消費者協会定期総会を行いました。3月17日の消費生活講演会では地産地消を考えるということで、田崎委員長に講話をいただきました。また、消費者協会では経産牛というお産をした牛を食べていこうという取組を行っています。今年度は阿部牛さんで経産牛をハンバーグ、ローストビーフ、ステーキに加工していただき提供しました。</p> <p>経産牛がお米を食べていることによって肉の脂が黄色くなることから、一般消費者が手にとりづらく、流通していないという現状であるが、安心・安全であって安いという利点が多いことからぜひ流通させたいというように考えています。</p>
委員	<p>私自身経産牛を知らず、何も知らないまま脂が黄色い商品を見たらやはり買わないように思う。しかし、脂が黄色い理由が自然なお米由来であるという知識があれば安くて安心な商品であれば購入したいという気持ちになる。そういった食材は他にもたくさんあるのではないかと感じた。消費者にとっても生産者にとっても良いものをもっと広めていく活動が必要だと思う。また、保育に携わる者として、小さい頃からの食育の重要性を感じ、行ってはいますが、家庭環境などが様々であり保護者に伝えていくことの難しさを感じる。子どもが発進していくことが大切であり、それが保護者に向けたきっかけづくりになればと思う。</p>
委員	<p>食育推進計画が策定されて、まだまだ日が浅いのでこれから普及していくこと、食育推進のための取組を実践していくことで結果となっていくのではないかと。そういった意味では少し長い目でみていかなければならない計画ではあるのかなと思います。</p>
委員	<p>「時短」ということが先程あげられていましたが、時間をもっと有効に使う方法として文明の利器をもっと考えるべきなのではないかと思いました。例えば、おはぎを作るというと時間・手間がかかるというイメージがあるかと思うが、圧力鍋やフードプロセッサを使えば簡単にこしあんができる。そういったことを伝えていけるような機会があればと思う。</p>

5 閉会

今年度の協議会は2回の予定。(第5回の開催を含む) 次回開催の時期については改めて通知する。